

宇佐八幡駅

1916年に宇佐八幡駅が開業したとき、この駅は宇佐神宮と近隣の豊後高田市を結ぶ8.8kmの路線の終点となっていました。この路線と宇佐八幡駅は宇佐の交通網において、周辺住民や宇佐神宮の参拝者、宇佐神宮を訪れる観光客などへ交通サービスを提供するという重要な役割を果たしました。宇佐神宮の昭和の大改修（1932-1941年）の際、宇佐八幡駅は宇佐神宮の伝統的な神社建築を彷彿とさせる様式で再建されました。当時の写真によれば、駅舎は社殿を思い起こさせ、側には大きな石灯籠がありました。1965年に路線が閉鎖された後、宇佐八幡駅は取り壊され、その後、宇佐神宮に車で来る訪問者のための駐車場になりました。

蒸気機関車クラウス26号は鉄道の歴史を思い出させるものとして保存されており、仲見世商店街近くの宇佐神宮の主な参道の横に見ることができます。この車両は1894年にドイツの会社から購入され、1948年に宇佐八幡駅に向かう路線に移されました。1965年時には、路線で最も古い運行中の列車かつ、路線で唯一残っている蒸気機関車となっていました。当時、九州鉄道が輸入したこのクラスの機関車20両のうち、今も残っているのは日本に4両だけで、九州に残っているのはクラウス26号だけです。この蒸気機関車は宇佐市に寄贈され、2000年と2019年に修理・修復が行われ、現在は大分県の有形文化財に指定されています。